

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名: 自然生命科学研究支援センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	(光・放射線情報解析部門) 新規教育訓練講習会13回、再教育訓練講習会5回、英語による新規教育訓練講習会2回 医学部医学科基礎放射線学の講義及び実習
各部門 利用者研修会(2~7回) 教育訓練講習会(1~8回)(法令に基づくものを含む)	(動物資源部門) 動物実験施設の利用者研修会:鹿田施設11回、津島北施設15回、津島南施設15回(講習会形式では計12回(鹿田施設11回+津島北施設1回)) 教育訓練(動物実験委員会) 11回実施 医学部医学科生物学実習を実施 農学部における講義及び他大学における講義それぞれ90分1回実施
(光・放射線情報解析部門) 再教育訓練講習会(3回) 英語による新規教育訓練講習会(1回) 医学部医学科基礎放射線学の講義及び実習	(ゲノム・プロテオーム部門) 組換えDNA実験教育訓練を計8回実施した。このうち、2回は外国人留学生用の講習会を実施した。 放射線業務従事者新規教育訓練を2回、再教育訓練を3回実施した(光放射線情報解析部門と共同)。
(動物資源部門) 医学部医学科生物学実習(集中)等学部教育の実施	(分析計測分野) ・利用者研修会(利用説明会・セミナー): 18回(13機器) 3次元光学プロファイラ1回、HPLC-Chip/QTOF質量分析装置2回、原子吸光分光光度計2回、高分解能質量分析装置2回、元素分析装置1回、走査型電子顕微鏡1回、ペプチドシーケンサー1回、生体X線回折装置1回、単結晶X線解析装置1回、薄膜X線回折装置1回、円二色性分散計1回、NMRユーザーズセミナー2回、デジタルマイクロスコープ2回 ・利用者訓練講習会(訓練・資格試験): 7回(4機器) NMR2回、HPLC-Chip/QTOF質量分析装置2回、高分解能質量分析装置2回、ペプチドシーケンサー1回 ・機器見学会(講義等): 2回 自然科学研究科前期、理学部化学科 ・機器利用相談: 109回(4~2月末)
(ゲノム・プロテオーム解析部門) 組換えDNA実験教育訓練(4回以上) 放射線業務従事者新規・再教育訓練講習会(2回・3回)	(極低温分野) ・液体窒素・液体ヘリウム利用者に対する教育訓練講習会: 1回(2013.5.15)
(分析計測・極低温部門) 機器見学(講義等での)の受入れ(1~2回) 機器利用相談の随時受入れ(月5~10回)	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
指標及び目標値は、「①-1 目標」欄に記載のため省略	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	(光・放射線情報解析部門) 研究成果論文の公表1編、学会発表5回、外部資金獲得のための応募 4件 学内外の共同研究の構築 2件(異分野融合先端研究コア若手共同研究及び資源植物科学研究所)
各部門 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築	(動物資源部門) 総説2編、学会発表5件、新規外部資金採択2件(基盤研究C1件、奨励研究1件)、研究費応募4回 共同研究構築 2件(受託研究費受入分としてナカシマメディカル+国際医療福祉大学、学内1件)
	(ゲノム・プロテオーム部門) 研究成果論文の公表: 3編/部門、学会発表: 9回/部門、特許: 登録1件、出願1件/部門 外部研究資金獲得のための応募: 4件/部門(うち、採択は3件) 学内外の共同研究の構築: 1件/部門
	(分析計測・極低温部門) ・論文発表: 13(砂月12、小坂1) ・学会発表: 19(砂月16、小坂1、太田2) ・外部資金獲得のための応募: 5(部門2、多田2、砂月1、小坂1、重複1) ・学内外の共同研究の構築: 17(QTOF3、XRD3、元素分析1、多田3、砂月5、小坂2)
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	(光・放射線情報解析部門) 福島原発事故対応: 福島県及び飯館村と協力のもと被災農地の修復に関する調査研究(資源植物科学研究所との共同プロジェクト)科学先取り岡山コースにて「放射線と付き合うための基礎」を実施 第37回国立大学アソシエーション総合センター長会議を主催
(光・放射線情報解析部門) 放射能による環境汚染対策について関係諸団体との連携を図り、協力し、支援する。	(動物資源部門) マウス・ラット上級技術講習会の開催1回(主催として) 第4回 岡山ERフォーラムFIRST(Fundamental Immediate Resuscitative Surgery for Trauma)コース開催 支援(主催: 医歯薬学総合研究科地域医療学講座・救急医学講座) 日本実験動物技術者協会第47回総会大会事務局を担当 職員が、九州実験動物研究会(評議員、学術集委員会委員、若手交流委員会委員)、 岡山実験動物研究会(常務理事)、日本病態生理学会(サテライトセミナー企画ワーキンググループ委員)、 日本実験動物技術者協会(関西支部幹事)、国立大学法人動物実験施設協議会(幹事、中型動物委員会委員長)、ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」(運営委員会オブザーバー)で動物実験関連領域の学会、協議会等の運営に関与。
(動物資源部門) 動物実験の技術講習会の開催又は開催支援を行う(1回以上)。 動物実験関連領域の学会、協議会等の運営に関与する(1学協会以上)。	(ゲノム・プロテオーム解析部門) 高校生を対象とした、組換えDNA実験指導を実施する(1回以上)。 学外のプロテオーム受託サービスを行う。
(ゲノム・プロテオーム解析部門) 高校生を対象とした、組換えDNA実験指導を実施する(1回以上)。 学外のプロテオーム受託サービスを行う。	(ゲノム・プロテオーム部門) 高校生を対象とした、組換えDNA実験指導を1回実施した。この他、薬学部のオープンキャンパスと、8回の高校生見学(薬学部と共同)にて、施設見学を実施した。 学外のプロテオーム解析を14件実施した。 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会が主催する組換えDNA実験の安全講習会の運営に協力した。 中国地区の国立大学間において、研究機器を共同利用(受託解析を含む)するための基盤構築に協力した(広島大学、鳥取大学が中心に実施)。
(分析計測・極低温部門) 学外受託分析サービス(元素分析ほか)を行う。 学外者の機器見学会を受け入れる。 機器利用説明会・講習会などを学外開放する。 学外開放機器を増やす。	

	<p>(分析計測・極低温部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外受託分析サービス: 合計170件、17団体(企業3、その他大学等11) ・学外者の機器見学会: 5回(63人) <p>スーパーサイエンスハイスクール事業、鳥取大学 生命機能研究支援センター、陝西師範大学、国立台湾大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器利用説明会・講習会の学外開放: 7回 <p>①記載の利用説明会・講習会のうち、HPLC-Chip/QTOF質量分析装置2回、原子吸光分光光度計2回、元素分析装置1回、ペプチドシーケンサー1回、生体X線回折装置1回、単結晶X線解析装置1回、薄膜X線回折装置1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外開放機器数: 17機器 今年度新たに、高分解能MSと表面電離型質量分析装置を設備NWで公開した。 ・産学官連携行事への参加: 1回 25年度 知恵の見本市(11/2)
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p>	
<p>④センター業務</p>	<p>自己評価</p>
<p>④-1 目標</p>	<p>(光・放射線情報解析部門)</p> <p>放射線安全管理、被ばく管理及び作業環境測定と、その全学支援を適正に実施した。 施設の維持管理も適正に実施した。 鹿田施設ニュースを発行した。 OMIC事業についても積極的な支援を実施した。</p> <p>(動物資源部門)</p> <p>【支援業務】 マウス胚凍結業務 10件、血液分析業務 45件、動物検疫 9件、中型動物実験支援 20件</p> <p>【施設の整備及び共同利用機器の整備】 施設持ち込みセーフティーキャビネット1台を共同利用機器化、共同利用機器として吸入麻醉装置5台新規購入、純水生成装置1台更新、セーフティーキャビネット1台新規購入(共同利用機器化分と合わせ、2台導入)、動物死体保存庫4台新規購入、プターイス兼用飼育装置6台新規購入、マウス飼育装置60台更新及びラット飼育装置3台更新(鹿田施設のマウス収容可能数が1.5倍にアップし、飼育室13室整備並びに鹿田施設から旧式のオープン式飼育架台を一掃、一部、津島南施設に移設)</p> <p>【広報・施設利用の利便性の向上】 平成24年度動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報を発行、センターニュースを3回発行、機器Web予約システム1機器追加、ネットを利用した実験動物購入フォーム作成。</p> <p>【点検・検診】(動物実験委員会活動) 国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会の動物実験に関する相互検証プログラムを受け、鹿田施設と津島南施設の現地視察を受け入れた。 平成24年度版自己点検・評価報告書及び現況報告書を作成した。</p> <p>(ゲノム・プロテオーム部門)</p> <p>部門の日常業務は全て行った。 組換えDNA実験安全管理委員会と連携し、組換えDNA実験に関する施設の査察を計4部局実施し(H.24年度:2部局、H.25年度2部局)、安全管理体制の構築を図った。 組換えDNA実験管理システムを更新し、①実験計画書の記入例を公開し、②上記査察により得た情報をシステム上で部局ごとに管理できるようにし、コンプライアンスの徹底に努めた。 学内利用者へのゲノムプロテオーム解析講習会を1回実施した。 学内のプロテオーム受託サービスを15件実施した。</p> <p>(分析計測分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員および学外の利用者数: 設備NW会計責任者登録教員数 114人、学外利用登録団体 13団体 ・学内依頼分析: 元素分析 1347件、X線構造解析 22件、NMR 4件、HPLC-Chip/QTOF 26件、ペプチドシーケンサー 16件、X線回折室 1件 ・広報活動: ホームページニュース更新数 24回、広報誌発行(3月)、センターコロキウム主催と発表1題 ・設備サポートセンター整備: 共同機器設置の要望調査の実施(11月) 共同利用機器の充実化: 新規導入 3機、転出 1機 共同利用機器の修理費支援: 4件 共同利用機器の周辺整備費用支援: 2件 設備NW中国・四国地区大学特設ホームページ: お知らせ8件 分析計測分野リユース情報掲載(4月): 11品 技術教育・交流行事: 行事主催 2回、行事参加 のべ6名 <p>(極低温分野)</p> <p>液体窒素供給実績 約6,500回、62 t(160研究グループ) 液体ヘリウム供給実績 約550回、35,000 L(20研究グループ)</p>
<p>各部門 各部門の日常業務を完全に実施する。(動物実験及び組換えDNA実験支援、マウス胚凍結(7件以上)、共通機器の利用促進、受託分析、放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理等) ホームページの充実、随時更新を図るとともに広報誌や利用の手引きを発行する。</p> <p>(動物資源部門) 鹿田施設でのマウスの最大収容能力を増強する(飼育室1室以上整備)。 平成24年度動物資源部門鹿田施設・津島北施設年報を発行する(1報以上)。 センターニュースの発行(3回以上)。 施設利用のWeb予約システムを拡充する(1項目以上)。 動物実験委員会と連携して学内点検を行う(1回以上)。</p> <p>(ゲノム・プロテオーム解析部門) 組換えDNA実験安全管理委員会と連携して、組換えDNA実験に関する施設の査察等による安全管理体制を構築する(耐震工事実施部局を除く)。 学内利用者へのゲノムプロテオーム解析機器講習会を行う(1回以上)。 学内のプロテオーム受託サービスを行う。</p> <p>(分析計測・極低温部門) 設備サポートセンター整備に向けて以下を実施する。 ・共同利用機器設置要望調査を実施し、その結果を基に要望の多い共同利用機器を導入する際の指針とする。費用支援、技術支援を適切に行なう。 ・設備サポートホームページを立ち上げ、中四国地区大学と連携して機器リユースを促進する。 ・設備NW利用者登録数の拡充 目標: 100人 ・学内液体ヘリウム供給体制を拡充する。</p>	
<p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>指標及び目標値は、「④-1 目標」欄に記載のため省略</p>	
<p>【総括記述欄】</p>	
<p>センター業務については、全学からの依頼に対して適切かつ的確に対応しており、質・量ともに多大な成果を上げていることは評価できる。特に社会貢献領域については、多様な取り組みを精力的に行っている。来年度は教授ポストが1名増となる予定であり、センター活動のさらなる強化を図りたい。</p>	